

柏樹

川口市退職校長会
会報「柏樹」
第33号
令和8年7月1日

親睦旅行や文学
散歩、美術展に
加え、俳句、健
康、盆栽、ゴル
フ、写真、絵画
英会話等、多様

令和8年度総会挨拶(要旨)

会長 小林 博武



川口市退職校長会は、会員の戮力協心により着実に発展し、237名を擁する県下最大の組織となっております。

本年度は役職定年退職校長6名全員が入会し、新たな力が加わりました。

社会が急速に変化する今こそ「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育むという教育の本質を継承し、子供たちの可能性を最大限に伸ばす学びを支えていくことが、私たちの責務です。

昨年度は、「信頼される組織づくり」を進め、連絡網の整備や会報・ホームページの充実に努めてまいりました。

また、研究発表表への参観・助言、初任者指導、学校運営協議会への参画など、教育現場への支援を継続してまいりました。

本年度の重点として三点申し上げます。第一に、会員相互の親睦の充実です。

なクラブ活動を継続し、誰もが参加しやすい雰囲気づくりを進めます。

第二に、川口の教育振興への寄与です。本市は「川口プラン」により全国を先導した歴史をもち、その根幹である「教師・行政・市民の協働」は、今なお重要な理念であります。現在、「未来を創造する人材の育成」を掲げ、学力向上、不登校支援、日本語指導等の課題に取り組んでおります。本会は、学校運営協議会委員としての参画や初任者指導等を通じ、現場に寄り添った支援を継続し、市教育委員会と連携しながら、現役の校長先生や教職員の皆様に側面から支えてまいります。

第三に、情報共有と見える化の推進です。会報「柏樹」やホームページを通じ、迅速かつ的確な情報発信に努め、会員の絆をさらに深めてまいります。

今後本会は「魅力ある」「信頼される」退職校長会として、地域と学校をつなぐ架け橋となり、未来を担う子供たちの成長を支える役割を果たしてまいります。会員の皆様には、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

趣味三昧 アユの友釣り

菅原 勲



「〇〇三昧」と言うと、昔から小説等の大衆文化の中で「贅沢三昧や放蕩三昧」等のように偏った、陥って抜け出せないとか不評を買う場面に多く出てくる言葉でした。

私の趣味三昧は、山と川に田園をバックグラウンドに、少年時代から吸収していたエネルギーを今、再び吸収できる喜びを得ている「アユの友釣り」です。自分が健康で元気に生活できているのも、現役のころは味わえなかった趣味の世界に没頭し、時間を忘れて熱中できるのでストレス解消にも役立っているようです。また、一日一日の生活の質を高め、心の充実感を得ることができているようです。

私のアユの友釣りのスポットは、越後三面川の清流です。この清流は、秋になるとアユに代わってサケが遡上してくる川なのです。サケ漁は江戸時代から盛んになり藩の財政を潤し、今日まで城下町のサケ文化を受け継いでいる川でもあります。私の「アユの友釣り」シーズンは、土日を中心に数日間、早朝より夕方まで昼食の時間も惜しみ、

膝までの水につかり、全神経をおとりのアユの泳ぎに集中して9メートルの竿を静かに動かしています。野アユは習性として、川底の苔の付いている石の周りを縄張りとして泳いでいます。釣り人の私には、その場所の石は黒く光っているように見えるのです。その場所におとりアユを竿の糸を「張らず緩めず」のテンションで送り込む集中力、技術力が最も難しく、いつも苦勞している技です。

この縄張りにおとりアユが送り込まれると、野アユは縄張りが侵される危険を感じし体当たりしてきます。その瞬間に、おとりアユの尾に仕掛けているかけ針に野アユは引っ掛かるのです。この瞬間の緊張感と醍醐味を味わいたく、一日の長時間を費やし暑くても寒くても楽しんでます。釣れた野アユは次のおとりアユに交換し「循環の釣り」を行っているのです。

最近の異常天候は、趣味にとっても予想外の状況です。昨年は私のホームグラウンドの川でも線状降水帯的豪雨に度々見舞われることがあり、降り出すと腰以上の濁流となり一週間近くは静まらず、石に付いている苔は流され再び清流に戻り苔が付くまでには日数がかかるのです。また、サケの漁獲量も以前は5万匹近くあったのが、昨年は1千匹にも至らなかったそうです。困った現象がいろいろある現況です。



石田孝作県顧問



井上清之教育長



岡村ゆり子市長



小林博武会長

柏樹会総会 祝賀会・懇親会

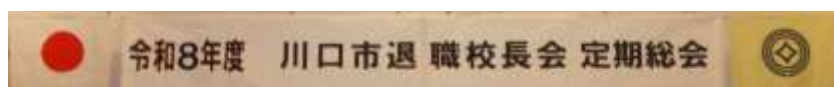
5月6日(水)、フレンジーアにおいて、54名が出席し開催されました。

総会では、小林博武会長の挨拶に続き、岡村ゆり子市長、井上清之教育長、石田孝作県退職校長会顧問、櫻井秀子全市長長会長の祝辞をいただきました。

議事に入り、令和7年度事業報告及び決算、令和8年度事業計画及び予算、役員が承認されました。

その後、盛大に祝賀会・懇親会が行われました。会場では恒例の美術展も開催され、成功裏のうちに閉会しました。

今年度は6名の新入会員を迎え、会員数は237名となりました。



朱寿星びに瑞宝双光章
おめでとうございます

倉林 隆 先生
平瀬 韶子 先生
上原 一良 先生
新海今朝巳 先生
村上博俊 先生

ちよつといい話

一期一会の陰にA I

〜探求心をもち新たな発見へ

茂 呂 尚 美

令和7年の暮れから今年のお正月にかけて、雪深い自然の中で、思いがけないことからオーストラリアから来て3か月間滞在していた二つのご家族と知り合うことができました。ご夫婦とその友人、祖父、大学生のお子さんと友人たち総勢12名です。何度かお会いすることを繰り返すうちに、お互い滞在している家を行き来するようになり、懇親を深めました。

皆さんは、私たちにお勧めの観光地、文化のことや食べ物のこと、生活ぶりなど、写真を見せてくれたながら、ユーモアを交えてたくさん紹介してくれました。「ハロー！ナオミ」「ハロー！シヤロット」と呼び合うようにもなり、とても楽しい時間を過ごすことができました。我が家のペット(犬)も皆さんにすぐになつき、しっぽを左右に大きく振って近づいていき、皆さんも「宙」「宙」と可愛がってくださいました。

私のオーストラリアのイメージは、写真を見る限り、山々や海の雄大さ、美しい景観でしたが、思っていた通りで

した。

お人柄のイメージは、

- ・ おおらかさ
- ・ リラックスした雰囲気
- ・ 親切

・ 陽気なところと社交性 です。

実際オーストラリアの人たちとお会いしているうちに、私が抱いていたお人柄と雄大な自然とがぴたりと重なりました。

楽しく充実した時間は、時を忘れるとよく言いますが、皆さんとお別れの日がやってきて、またお会いする日を今でも楽しみにしています。

ここまで皆さんと親しくなれた陰には、携帯のA I翻訳機力があつたからです。A I様々でした。A I翻訳機は、音声でも文字媒体での会話が成立します。お会いした当初は、自分の語学力の低さに少し自信を失いましたが、ある時からA Iの力を借り、楽しもうと方向を変え、片言の英語とボディランゲージを加えて心より楽しいひとときを過ごすことができました。

今回の出会いを機に、今後も楽しく元気に生活していくために、探求心をもち、いつまでも学び続けることを大切にしていきたいと思えます。年齢を重ねても、自分にある「探求心」を押しつぶしてしまわず「なぜ」「どうして」「どうすればいいだろう」と考える習慣をもち続けたいと思っています。

日々雑感

クマガイソウ

T H

私が現役最後に勤めた根岸小学校の校章は「クマガイソウ」がモチーフとなっています。クマガイソウとは、ラン科アツモリソウ属に分類される多年草の一種で、毎年春に大きな花と、扇型の特徴的な葉をつけます。名前の由来は、袋状の花弁が、郷土の偉人・熊谷次郎直実公が矢から身を守るため、馬上で背負った母衣に形が似ていることからきています。

かつてクマガイソウは、根岸の地に広く自生していたそうですが、近年では、環境省や多くの都道府県から絶滅危惧種の指定を受けており、全国的にその数を減らしています。そのクマガイソウを復活させようと、開校40周年記念事業として、学校応援団「想根会」の皆様を中心に、地域と学校が一体となって植栽が行われました。毎年4月にクマガイソウまつりが開催され、開校55年となる今年も花を咲かせていました。

この催しには、市内はもとより、県内・県外からもたくさんの方が毎年訪れているのですが、ある年、次のようなことがありました。

9月に、隣接する市で畑作をされている方からクマガイソウまつりのお礼にと、巨大かぼちゃを5個いただきました。その巨大かぼちゃで、6年生の子供たちとお化けかぼちゃを作ることとなりました。

かたい皮をどのようにくり抜こうかと悩みましたが、意外にも段ボールカッターでサクッと切れてしまうほど、皮はやわらかかったです。子供たちは仲よく協力して作業を進め、個性豊かなお化けかぼちゃが完成しました。

彫った時期が早かったので、少しずつ崩れていき、ハロウィンを待たずしてつぶれてしまったのは反省点でしたが、クマガイソウがつないだご縁は、子供たちにとっても自分にとっても、思い出深い、よい経験となりました。

そんなクマガイソウですが、根岸小学校でも昨年今年と、咲く花の数が減少しているそうです。老木の伐採による環境の変化と、何より近年の猛暑が大きく影響しているのではないかと思います。将来に渡り環境を守り続けていくことの大切さを改めて思い知らされます。

来年も、きれいな花をたくさん咲かせてくれることを願っています。皆様も、ぜひ一度、根岸小学校を訪れてみてください。



行事・クラブ活動

♣ 美術展



第17回美術展も、会員の皆様のお力により素晴らしいものとなりました。

作品数51点、出品者延べ13名・2団体、いずれも魂のこもった作品でした。伝統の美術展、これからも末永く続けていきたいと思えます。

(小川 吉之丞)

♣ 親睦旅行

厳しい残暑が続いていた中の9月24日水曜日、さわやかな秋晴れの好天に恵まれ、恒例の柏樹会親睦旅行が、20名の参加で実施されました。

午前8時にリリア前をバスが出発し、和やかな雰囲気で行きがスタートしました。

最初の目的地「富岡製糸場」では、ガイドの方の詳しい説明に、予定していた時間を超えてしまうぐらい熱心に研修しました。

磯部ガーデンホテルでの昼食は、晚餐かと思うほどの豪華さに舌鼓を打ちました。露天温泉を満喫した方もいらつしやいました。

その昼食で満腹のためか、最後の「こんにやくパーク」では、多くの方が名物のこんにやくバイキングに手を出すことなく、お土産を買い求めていました。

帰着は、予定通り午後5時半にリリア前に到着し、参加した皆さんは満足げな表情で帰宅の途につかれました。

(宮口 利政)



♣ 文学散歩

10月31日(金)、17名の参加者が午前10時にJR王子駅中央口近くの飛鳥山入口に集合しました。

昨年度実施の早稲田界限は、見学場所が多くて忙しかったとの反省から、今回は埼玉の三偉人渋沢栄一関係の三か所だけ見学することにしました。

最初は渋沢史料館をゆつたりと見学しました。渋沢栄一は、近代日本経済の父と称され経営哲学の名著「論語と算盤」を著しました。約5百社の会社や銀行などの設立や経営指導に尽力した功績をじっくりと見学しました。

次は、二つの班に分かれて隣接の青洲文庫(書庫)と晩香廬(洋風茶室)を交互に見学しました。どちらも大正時代に建てられた重要文化財で価値ある建物でした。

渋沢栄一の座右の銘「天意夕陽を重んじ、人間は晩晴を貴ぶ」に晩年の生き方を学ばされました。



当日は秋日和の穏やかな天候に恵まれ、最後に王子駅前の大衆割烹「半平」で和やかに昼食を取り帰途につきました。

(佐藤 修)

♣ 俳句の集い

令和7年度の俳句の集いは、コロナが流行っていたときに実施していた紙上俳句ではなく、順調に行うことができました。

毎回、俳句の集いの会員の皆様に俳句の募集をかけ、集まった句を教育研究所において参加者で詠み合い吟味し、優秀句を選出しました。そしてその会で出された指導・助言をまとめ、投句された皆様に返送し、今後の句づくりの参考にしていただきました。

ところが、新年度は活動拠点としていた教育研究所が移転し、さらに外部団体が主催するということで、優先的に使えないことが判明しました。

2月5日(木)の最終日の日に、集まったメンバーで、今後どのように活動するか皆さんのお考えをいただきました。そして出された結論が、借りられる公民館を探し、そこで今まで通り行うことにしようと決まりました。

2月25日(水)に行われた理事会の日に、会場であった並木公民館に相談したところ、一般での申し込みなので抽選になりますと言われました。

ところが拾う神はいるもので、退職校長会事務局幹事の先生から、「退職校長会で借りられますよ」と声をかけていただき、事なきを得ました。本当に救われました。

(大山 孝二)

♣ 健康教室

6月26日(木)、青木公民館で簡単ヘルシー料理(第17回)を行いました。講師は埼玉県・川口市食生活改善推進員協議会、櫻井道子会長にお願いし、参加者9名で楽しく進めることができました。調理メニューは、そうめんチヤンプルー、ミニトマトの和風マリネ、わかめスープ、豆腐白玉のみたらし団子とご飯でした。会食しながら、櫻井先生から「健康寿命」のお話を聞き、参加者からは、「美味しい」「自宅でも作ってみます」等の声を聞くことができました。

10月1日(水)、ウォーキング(第19回)を行いました。参加者は13名で、川口駅↓飯塚氷川神社↓最勝院↓荒川↓舟戸学園↓錫杖寺↓川口市役所↓川口駅と歩きました。降雨に遭いましたが、約6kmを全員完歩し、昼食会で乾杯しました。

「市役所の新庁舎に初めて来るのができた」

「雨に降られたが、参加してよかった」等の声を聞くことができました。き、よい一日になりました。

(原田 明)



♣ 盆栽教室

令和7年度は、恒例の実技教室を二つ行いました。

一つ目は10月の「桐山様指導の花物盆栽・木瓜の植替え」でした。伸びた枝を剪定し、根鉢をほぐしての植替えは1時間程の作業で終わりました。7名の参加で、楽しく活動できました。また、3月初旬から1ヶ月程咲き続け、花物として十分に鑑賞できました。

二つ目は3月末の「飯村様指導の喜楽園での松柏盆栽・真柏の植替え」でした。真柏の素材を剪定し、針金をかけて整姿し、軽石に植替えました。内容としては中級者向けですが、剪定で残す枝・はずす枝、左右後ろの枝順等を丁寧に指導していただきながら、たつぷりと2時間楽しめました。9名の参加で、素材とは見違える整姿後の木姿にそれぞれが感動していました。

令和8年度は、12月に「松竹梅」の寄植えと3月に「松柏類」の植替えを計画しています。初心者でも十分に楽しめますので、参加をお待ちしています。

(磯 奈保子)



♣ ゴルフクラブ

昨年度、柏樹会ゴルフクラブでは、
4月4日（金）

富貴ゴルフ倶楽部 13名

6月5日（木）

星の宮カントリー倶楽部 16名

10月2日（木）

アゼリアヒルズカントリー 17名

12月4日（木）

板倉ゴルフ場 12名

の4回、無事に行うことができました。
今年もそれぞれが各自の腕前を發揮し、和気あいあいと、緑の中で楽しいひと時を過ごしました。

令和8年度は次の通り行います。

4月7日（火）

皆川城カントリークラブ

6月4日（木）

星の宮カントリー倶楽部

10月上旬

アゼリアヒルズカントリークラブ

12月上旬

場所未定

以前は30名程の参加があったものが、現在はいぶん減っています。余暇を楽しみ、気分晴らしのためにも多くの方に参加してもらいたいものです。
今後先生方のご協力を得ながら継続して活動していきますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

（佐藤 誠造）

♣ 写真クラブ

昨年度の部員は12名、活動は2回の撮影会でした：が、2回目の東京駅周辺での夜景の撮影会は寒さと天候不順のため急遽中止いたしました。

写真クラブの撮影会は昨年度56回目を実施しましたが、それまでの撮影地は川口や都内の公園・景勝地がほとんどでした。昨年は撮影地までの距離を延ばしたり、夜の撮影を計画したりして変化を付けてみました。しかし、参加者は相変わらず少なく計画の難しさを感じています。撮影会は以前はデジカメ等で撮影する方が多かったのですが、最近はスマホを使って撮る方も増えてきています。私もスマホで撮ってみましたが大変画質も良く、今後増えてくるかもしれません。また、スマホはすぐに写真をラインで見合いなから交流ができるのも楽しいものです。計画段階から最後までグループラインで仲間との情報交換を行っています。が、時間的にも費用的にも大変効率的だと思っています。今後は部員全員がライ



イン参
加でき
るとい
いなと
思っ
ていま
す。

（宇多川 正博）

♣ 絵画クラブⅡ 絵楽愛

カイガクラブ

絵が苦手な人も絵を楽しむ人になれる「絵が苦（が）く」から「絵楽（が）く」へ絵を楽しみ 絵を愛する人の集まりそれが 絵楽愛（カイガクラブ）

※神山則幸 作

絵画クラブは、講師の濱口先生、会員13名で楽しく、和やかに活動しています。活動は年6回で、2ヶ月に1回のペースで主に静物画を描いています。活動内容は、絵の具、色鉛筆、クレヨン等の使い方、デッサンの基本、構図、彩色の基本等をご指導いただき作品の制作に取り組んでいます。

楽しく活動しているのですが、私はうまく描けません。しかし皆さんのおかげで何とか頑張っています。

そして、とてもびっくりしたことを一つ、へたくそ絵に講師のちよっとした手が加わると、あつという間に絵が変わってしまいます。

「ええーっ！俺ってこんなにうまくいったっけ！」となんかいい気持ち・・・。

そして、終わった後は、それぞれの作品についての批評、感想等を話し合う研究会です。

描けば、描くほど、絵画ある！（カケバ、カクホド、カイガある）

さあ！皆さん！ ぜひ！ 絵画を描く、極上の楽しさを味わってみませんか！

（渡邊 秀人）

♣ 英会話クラブ

私たちのクラブは、講師1名と会員8名で、月1回公民館で活動しています。

会の活動内容は2つあります。

その一、英語で質問されたら、すぐに英語の文章で答えることができるようになることを目指しての活動です。そのための練習を中学校の教科書童話、紙芝居や講師からのプリントを使って行っています。

その二、世界の料理を楽しみながら海外の食文化を理解する活動として、会食の機会を年に1回設けています。

昨年度はスペイン料理と地ビールで、スペインの国のことを考えながら食事を楽しみ、会員相互の親睦を深めることができました。

今年は、どこの国のことを楽しもうかと考え中です。

また、実際に外国の方と話す活動も行ってみたいと考えています。

（野本 和子）



教育情報

「自分の考えを深め、豊かに表現できる児童の育成」

「考えたい！伝えたい！」

脱！正解だけを求める授業！

川口市立本町小学校

校長 高宮 明洋

1 はじめに

本校は、令和6・7年度に川口市教育委員会の「学力向上」に関する研究委嘱を受け、国語科・社会科・算数科の3教科で研究発表を行った。

2 研究について

本校の児童は、正解や知識を得ることで満足してしまい、粘り強く考えたり友達と話し合いよりよいものへと練り上げたりすることが苦手である。このことから、児童を学びの主体に置き、問いから問題解決・まとめに至るまでの学びのプロセスを重視する授業改革を目指した。特に、副題にある「脱！正解だけを求める授業」は、本研究推進の肝となっている。

3 研究の概要

(1) 研究の方向性

本校の研究は、仮説を立て検証していく仮説検証型ではない。「宣言」という形で研究の方向性を明確にし、研究チームや授業者が自ら主体性を発揮しながら具体的手立てを立案し、創意をもつて授業づくりを行ってきた。

宣言1 「探究心をくすぐる授業を実践

し、思考と自ら表現することを楽しむ児童を育成します」

「探究心をくすぐる授業」づくりを目指し、多様な課題設定や学習展開を工夫し、問題解決に自分なりの考えや見通しをもたせる等、個別最適な学びを生かした授業実践を行った。

宣言2 「多様な表現があふれる授業を実践し、学び合いを楽しむ児童を育成します」

「多様な表現があふれる授業」づくりを目指し、学び合いの位置付けや形態・対象等を工夫し、協働的な学びを生かした授業実践を行った。

この二つの宣言を柱とし、相互に関連付けながら、考えを深め豊かに表現する児童の育成を目指した。

(2) 具体的な実践

①宣言1の取組

探究心をくすぐる仕掛けとして、単元や各時間の導入を工夫した。3年算数科では、単元の導入でペットボトルと液体を使った操作活動を取り入れ、身近な生活との関連や疑問に気付かせて、個々に課題や学習の見通しをもたせた。

また、6年社会科では、単元のまとめにおいて、既習を生かし政治の安定のため将軍にどのような進言をするのか個々に再追究する場面を設定し、学習の個性化を通して考えを深め表現する活動を行った。



その他、ゴールイメージの見える化や個に応じた学習の提供、地域教材や人材の活用等について研究を深めた。

②宣言2の取組

多様な表現があふれる授業づくりとして、一単元や一授業内での学び合いの位置づけを工夫した。国語科においては、ペアやグループによる交流の意図や視点を低・中・高学年の3段階に分け発達に応じた学び合いができるようにした。

また、学び合いは児童同士にとどまらず、5年社会科では、米作り農家の人へのインタビューや、自動車づくりに携わる人をゲストティーチャーとしてオンラインでつないだり実際に来校してもらったりしながら、直接対話を通して考えを伝え深めていった。

その他、ペアやグループ、同質や異質の組み合わせ等学び合いの形態や内容の工夫、ICTを活用した表現の工夫等について研究を深めた。



4 成果と課題

校内児童アンケート「考えたり発表したりすることが楽しい」では、中学年で10ポイント上昇した。また、県学力学習状況調査「グループやペアで話し合ったり意見を出し合ったりして課題を解決したこと」では、5・6年とも大きく伸びた。このように自ら考え他者と学び合いができるようになったことは大きな成果である。

今後は、個の学びを深めるための更なる学び方の工夫や、学び合いを「楽しむ」から「深める」段階への手立ての深化が課題である。

5 終わりに

知識や正解を求め満足していた児童の姿は大きく変容した。今後、児童が変化の激しい時代を生きていくことを見据え、知識を獲得することだけに満足せず、様々な問題に対し主体的に考え協働的・創造的に解決していく力を身につけていきたい。

編集後記

会報「柏樹」第33号をお届けします。玉稿を賜りました皆様には、心より感謝申し上げます。

アンケート結果を受け、役員一同検討し連絡網の改革を行いました。今後はショートメールも用い確実に連絡が行き届くようになると期待します。

皆様には、今年度も各種行事・活動へのより積極的なご参加をお願い申し上げます。ご意見等は幹事までぜひどうぞ。

(滝澤 榮則)



川口市退職校長会ホームページ

<https://kawaguti-taishoku-koutyou.com>

QRコード・URLからご覧ください